

# 青木優子の 肉便器契約

**R-18**

**BOOMDRAGONKID**

# 社長室

大変申し訳  
ございません

今回の問題の責任は  
全て自分にあると  
認識しております

お叱りを受けるのも  
当然だとは思いますが  
自分で言うのも  
厚かましいことは  
重々承知しております

ですが…  
私にはもうすぐ  
生まれる子供があり  
それに住宅ローンも  
抱えております

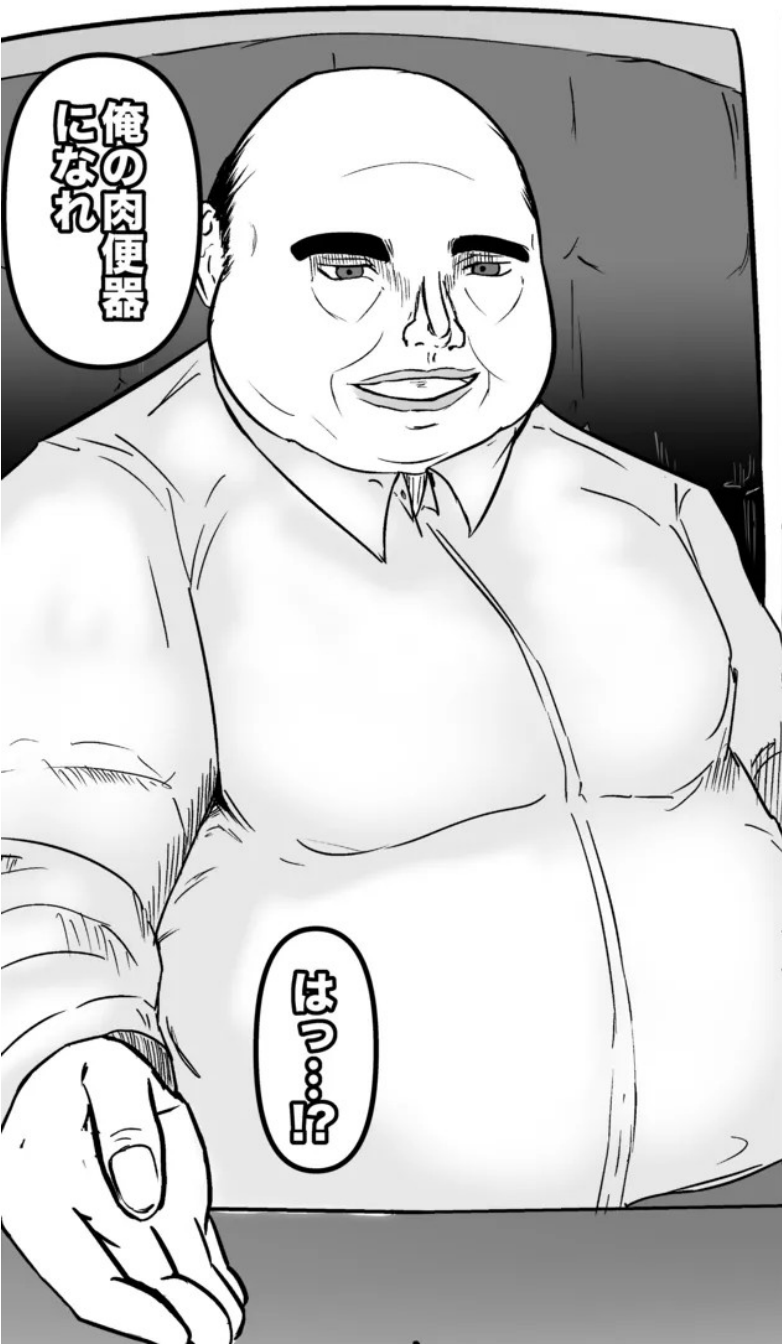
この巨額の賠償金には  
本当に耐えられません  
どうか…お願いいたします…



青木君  
お前の事情は  
理解できる  
だがお前の問題で

会社は少なからぬ  
損害を被った  
それに比べればお前の  
賠償金など  
氷山の一角に過ぎん

会社の立場として  
お前を助けることは  
できない



俺の肉便器  
になれ

はっ…!?



しかし個人  
としてはなら  
方法はある



本当ですか!?  
具体的にどうするねば…

えっ…  
それは…

私におっしやって  
いるのですか…？

ここにお前  
以外いるか？

ちよ、ちよっと  
待ってください  
私は男ですよ  
それに30歳手前で

結婚もしていて  
子供ももうすぐ  
生まれます

それは全て  
承知してある  
だからこそお前が  
良いのだ

そして俺は  
人を見る目  
がある

お前の女装の  
素質は最高だ

詳細は後ほど  
メールで送る  
時間はない

今日中に  
しっかり  
考える

良い返事を  
待っている



社長が賠償金を  
全額肩代わりする  
そしてこの関係への  
未練は一切ない



メールに書かれた  
社長の条件は…

社長の女として  
社長の性的処理を行う  
妻の出産当日までの  
約3ヶ月間  
関係終了と同時に



生活費を抜きにしても…  
払いきれない…  
たったの三ヶ月なら…



もし断れば…  
仕事を十年…



おっ！その姿、  
よく似合ってるな

これから何を  
するのか  
分かってるん  
だるう？  
優子

優子!?!  
なんだそれ!?

女装している間は  
優子という名だ  
喋り方も女らしくする

分かったら  
フエラチオ  
お願いね

うわ…でかすぎる…  
俺のより少なくとも  
三倍はでかい  
俺のは普通の  
サイズなのに

近くで見るとさら  
にでかく感じる

これが本当に…  
人間のチンコ  
なのか…

赤ん坊の腕  
みたいな太さだ

こんなの口に  
入るわけない  
適当に舐めておごう

尿臭と汗の  
臭いが混ざった  
濃い匂い…クサイ…  
じよっばくくて苦い…  
キモチワルイ

仕方ないな

!?

本当のフェラチオを  
教えてやる!!!

歯が当たらない  
ように気をつける

ズズズズズズ

まさか…  
私の口が…  
社長のデカチンに  
犯されてる…

口の中がチンポで  
いっぱいだ…  
喉の奥まで  
えぐられるようで…  
ゴッポゴッポと…

ま

あ

こんなに乱暴に  
されたら…  
アゴが外れそう…

臭いが脳に  
まてくる…  
苦しい…

息ができない…  
ヤバい…デカチンに  
イキ殺される…  
意識が…

素晴らしいぞ優子  
その調子だ  
もうすぐ…うん…

ズズズズズズ



イクニ全部飲め



精液の味が... 辛い...

精液の量が半端ない... 精液で溺死しそうになった...

なのにこんなに大量に射精したのに...

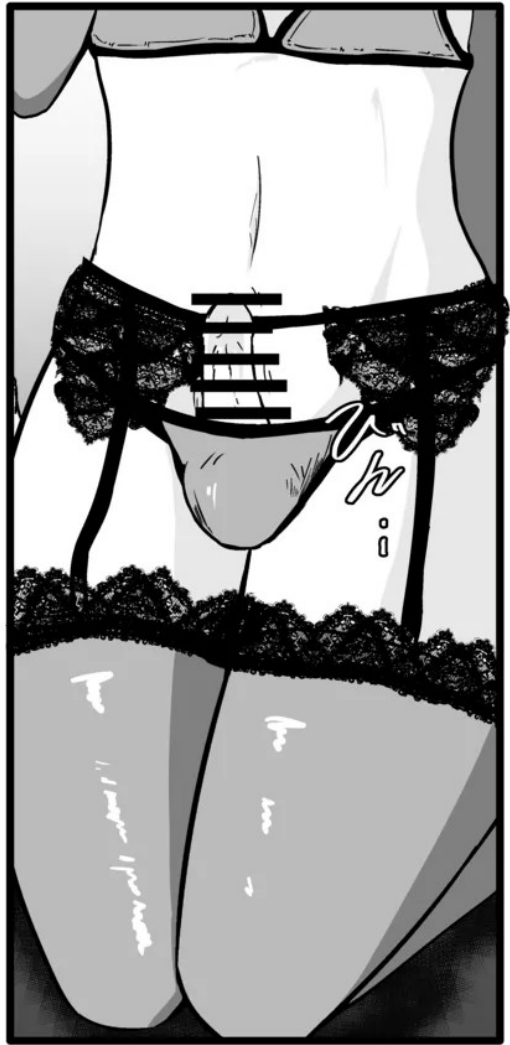
まだこんなに硬いままなのか



おお  
初めてにしては  
上出来だ  
ではそるそる...

お前の体の素質を  
チエツクしよう  
ケツをこっちに  
向けて高く突き出せ

あゝ



ん  
...



見事な処女穴だ  
こんな素敵なケツを  
持て余すとは  
男として  
もつたいたいな

おおケツ穴が簡単に  
指を吸い込んでいく

ん  
ん  
ん

あゝ  
あゝ

ん  
ん



おお指2本だけで先走りが出てきた

そんなに気持ちいいか？  
優子ちゃん

気持ち…  
よくないよ

変な感じ…  
指2本だけで…  
もしや…



イツテツツ  
痛い

いきなりこんなデカチンを  
一気に挿入してきやがった

抜いて出して

ガッ

ガッ



なぜまた入れてくるんだ

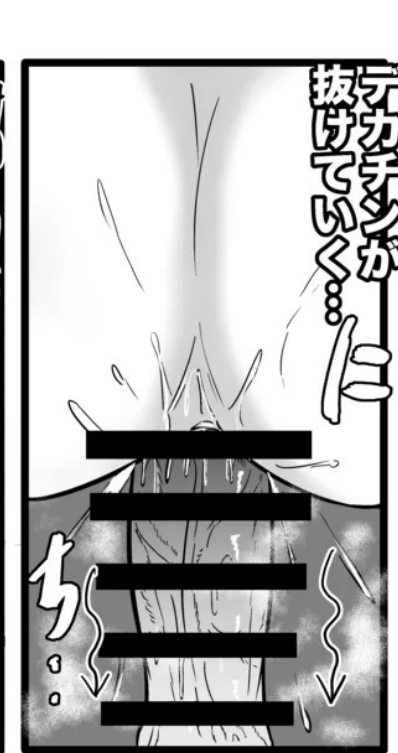


おの

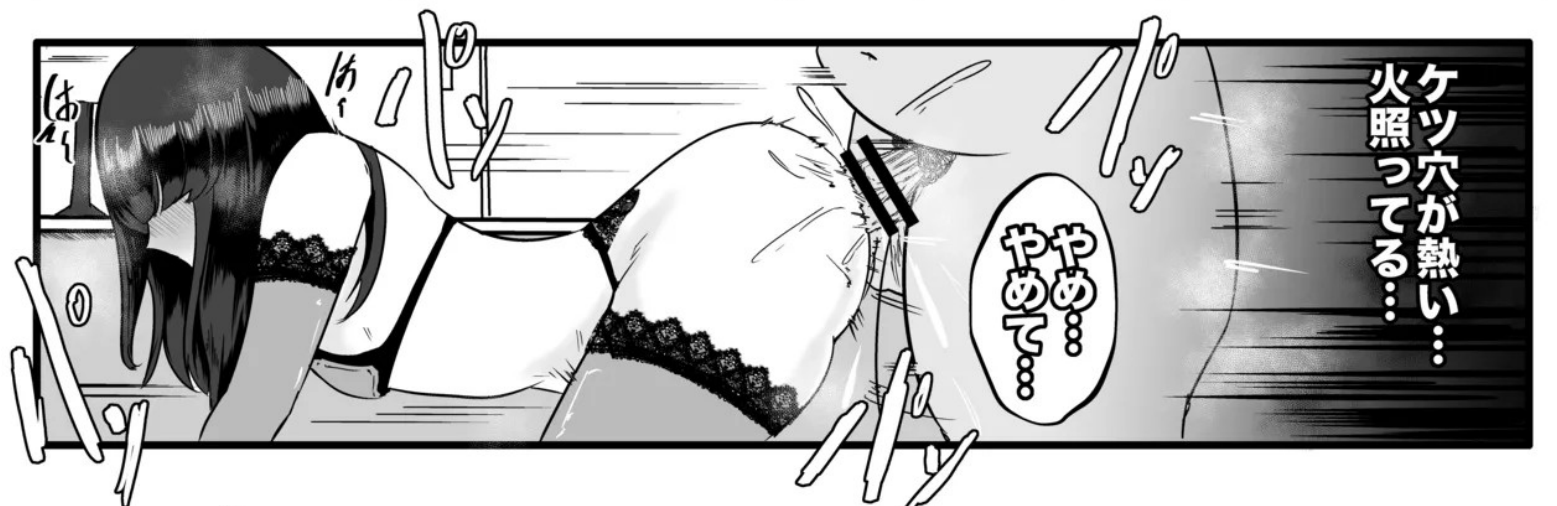
この解放感…



はあ

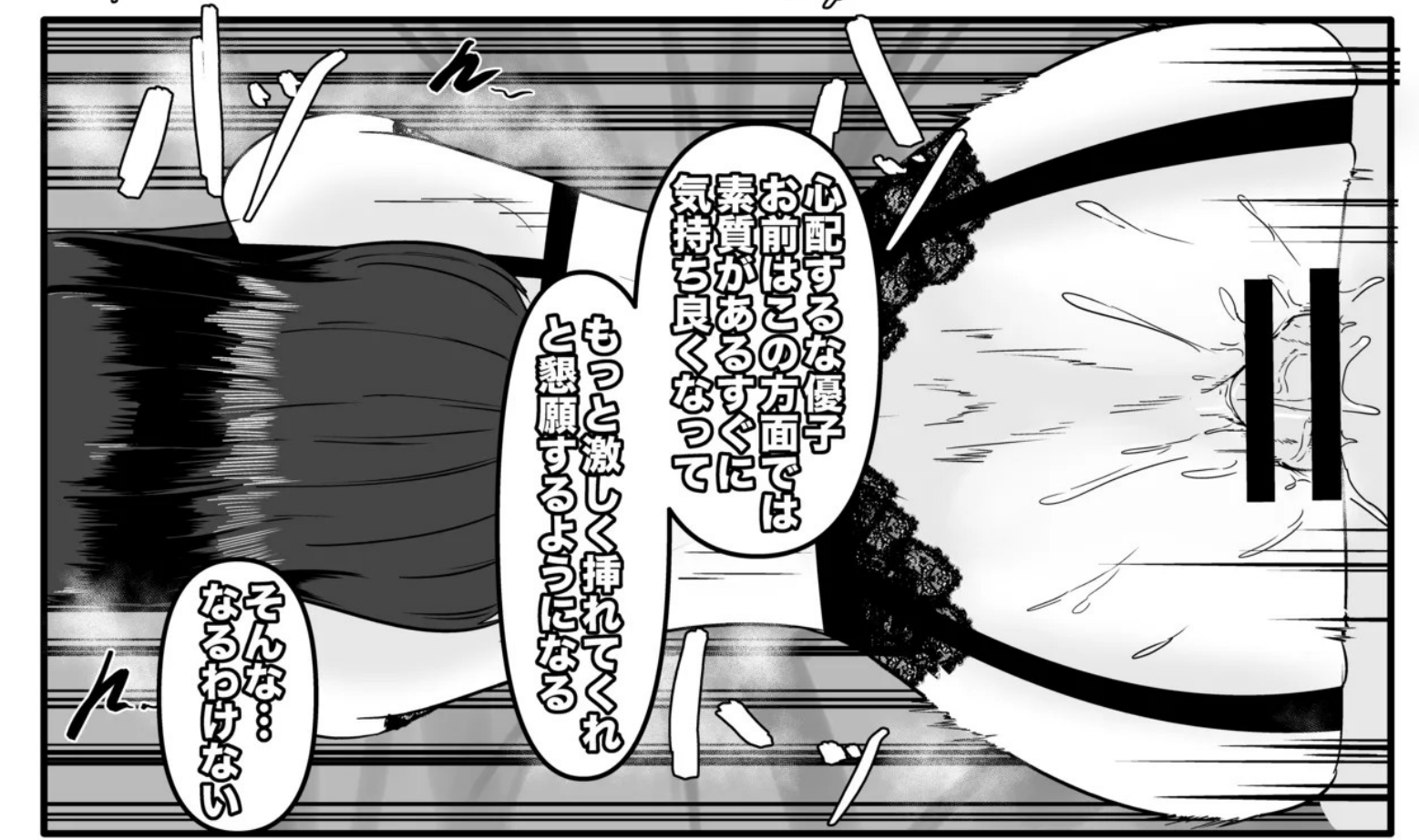


デカチンが抜けていく…



ケツ穴が熱い… 火照ってる…

やめて… やめて…



心配するな優子 お前はこの方面では素質があるすぐに気持ち良くなって

もっと激しく挿れてくれと懇願するようになった

そんな… なるわけない



まったく  
肉便器の分際で



とにかく今は  
ケツ穴に集中する

ダメダメ...  
痛いから抜いて...



口を挟むなど  
腰を振ること  
集中する!!!

ケツ穴の締めりが  
良くなってきたな

えっ…お尻を  
叩かれたのに…  
電流のようにな…  
快感が走った…

ぶる…

イッ…♡

ビリビリする…  
ケツ穴の痛みが  
引いてきた…

体の奥で何かが  
涌き上がってくる…

こんなに締め  
付けられちゃ…

ずりゅ



記念すべき初の  
中世のイベント!!!

あ〜♡♡♡  
あっ♡♡♡

んんん

んんん



えっ…  
なにぞや…!!

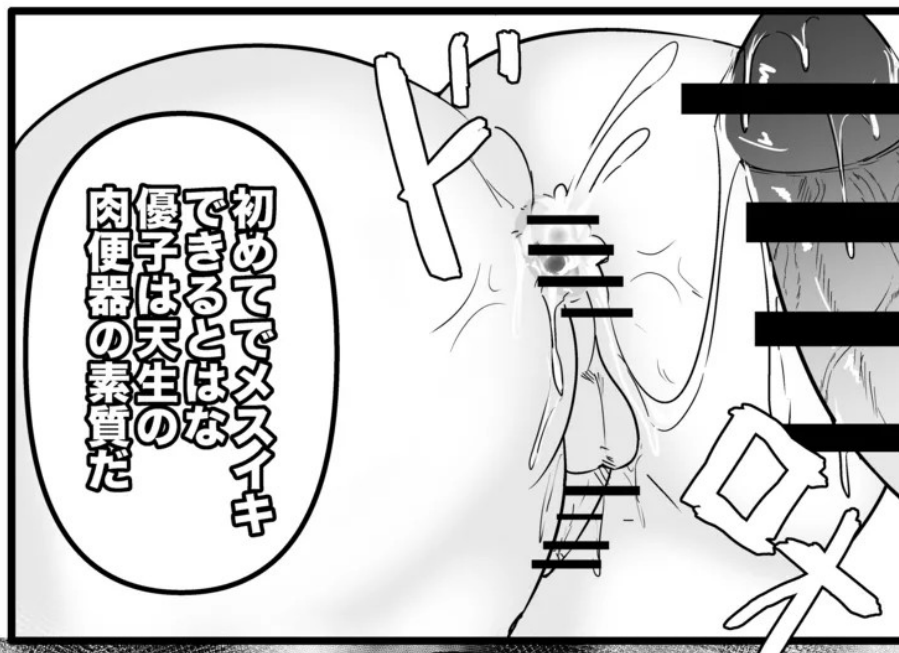
チンチンは  
触れて  
ないのに…

なぜ射精して  
しまったんだ



メスイキ!?  
肉便器!?  
冗談じゃない?  
俺は男だぞ  
でもなぜ…

社長のデカチンが  
ようやく抜け  
たというのに…  
ケツ穴がムズムズする…



初めてでメスイキ  
できるとはな  
優子は天生の  
肉便器の素質だ



まさか…  
メスイキの味を  
覚えてしまったのか…  
そんなはず…

おいぼーっとして  
どうした俺はまだ  
満足していない

仰向けに寝て  
ケツ穴を広げる

デカチンで犯されるのが  
好きな変態じゃないのに…

あ  
い

今この瞬間…  
私のケツ穴は…  
目の前のこのデカチンを  
欲じている…

俺の頭は  
おかしくなって  
しまったんだ

デカチン♡  
デカチン♡

あぁあぁあぁ♡  
あぁ♡あぁ♡

社長のデカチン  
入ってきた!!!

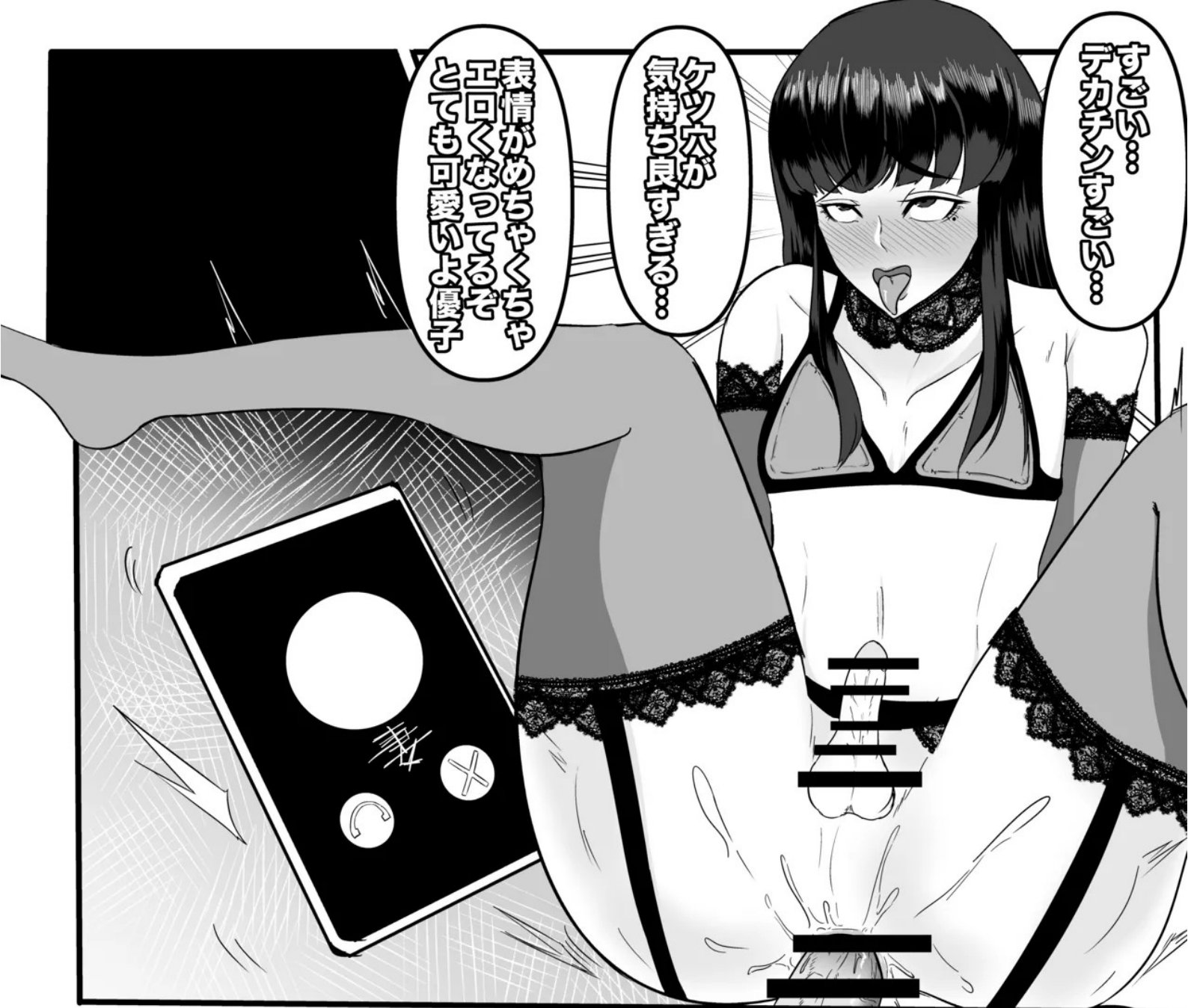
ッ  
ッ  
ッ

ん  
ん  
ん

びん  
ん

ん  
ん

ん  
ん



すてい...  
デカチンすてい...

ケツ穴が  
気持ち良すぎる...

表情がめっちゃくちゃ  
エロくなってるぞ  
とても可愛いよ優子



ん...



おや君の妻も  
タイミンクがいいな  
出る



いつ終わるか  
も分からない...

まだ仕事中で...  
気づかなかった...



もしも?  
メッセーヅ?  
ごめん...



先に寝て  
てくれ...  
♡♡♡



大丈夫...ちよつと  
物を落としちゃって...

変な声...?  
聞き間違いだろ...

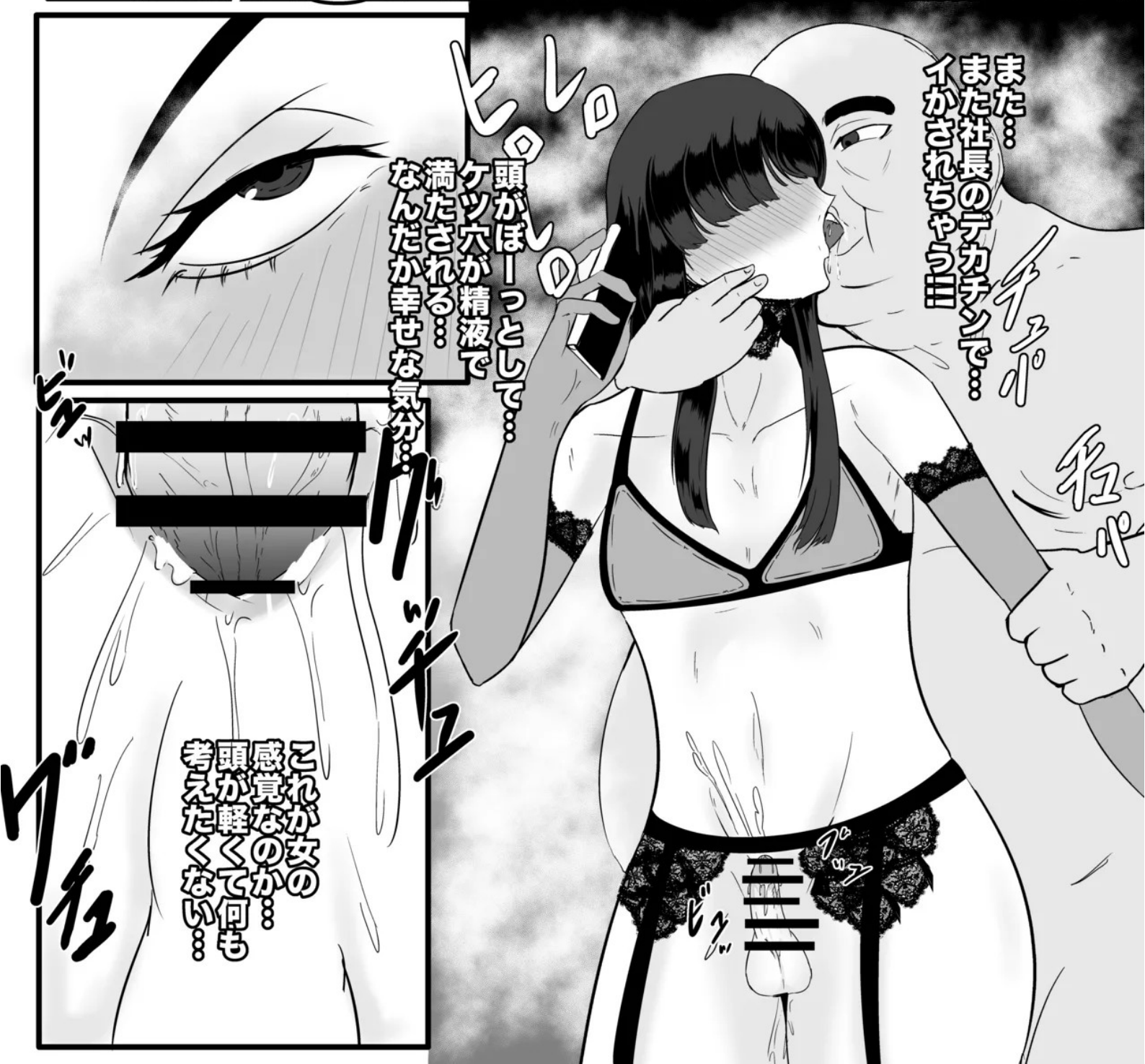
♡♡



優子…イクぞ  
お前のケツ穴で  
しっぴかり味わえ

誰も？いないよ…  
別に用事が

なげれば…  
切るよ…  
だつて…



また…  
また社長のデカチンで…  
イカされちゃっ…

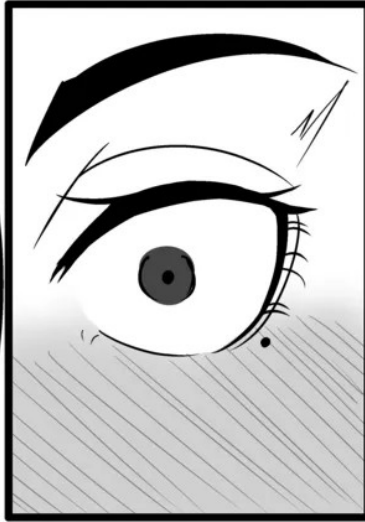
頭がぼーっとして…  
ケツ穴が精液で  
満たされる…  
なんだか幸せな気分…

これが女の  
感覚なのか…  
頭が軽くて何も  
考えたくない…



な…なんで…  
キスして  
くるんですか

拒まなかった  
じやないか  
むしる楽しか  
いる顔してたぞ

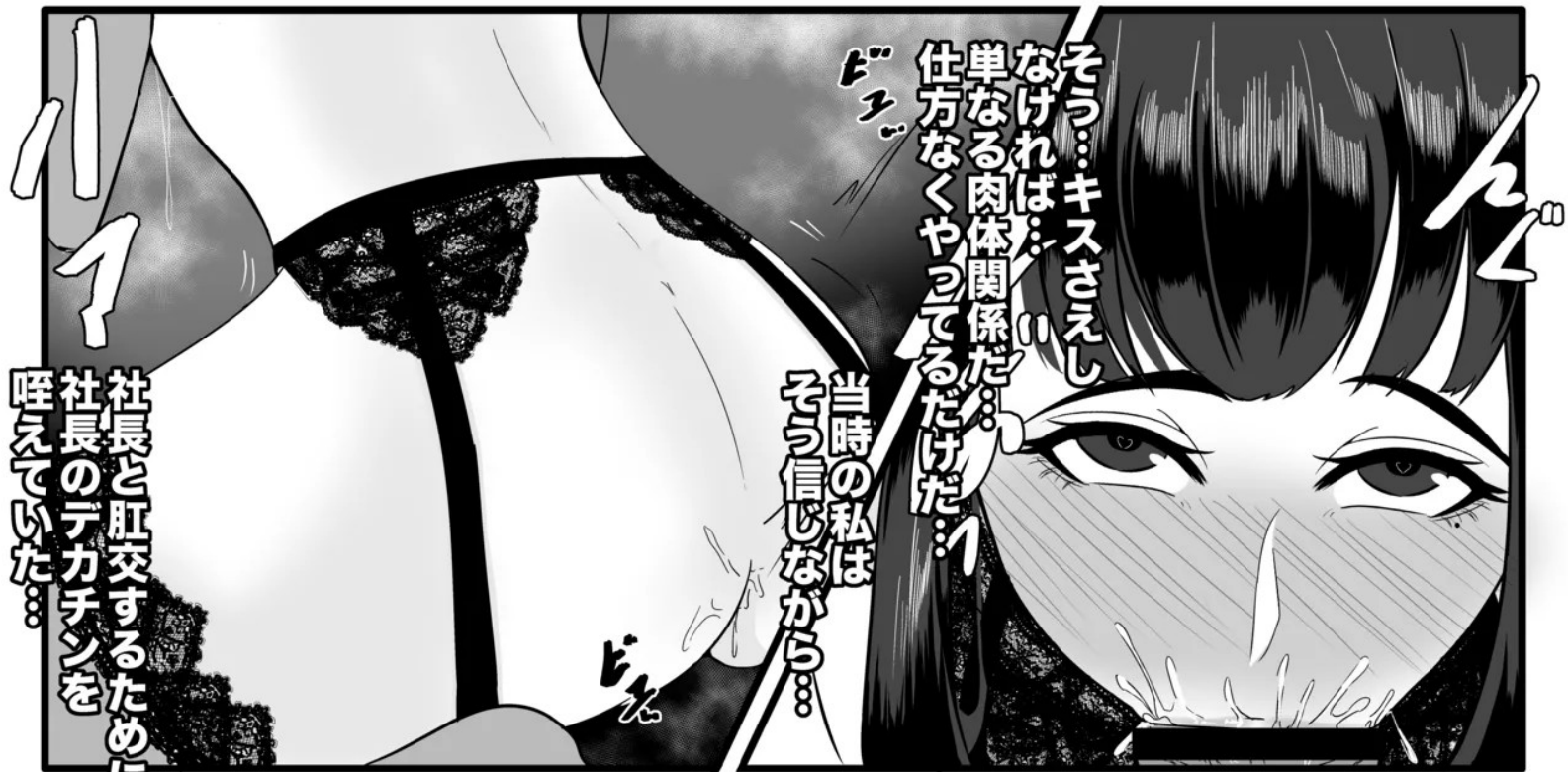


それは…  
ただ反応できなかつ  
ただけで…

チンポにキスで  
きるのに  
唇にキスするのは  
ダメなのか

⋮

とにかく  
続けよう  
チンポをき  
れいに舐める



そう…キスさえし  
なければ…  
単なる肉体関係だ…  
仕方なくやってるだけだ…

当時の私は  
そう信じながら…

社長と肛交するために  
社長のデカチンを  
啜っていた…



その後し  
ばらくは…



あの夜…

私たちは動物のように  
休みなく交尾を繰り返した

クイユ…

ピタッ

社長のデカチンが…  
私に雌としての喜びを  
何度も味わわせてくれた

デカチンは…  
私のケツ穴を…  
自分専用の形に  
開拓したいかのよう…  
何度も激しく  
ピストンしてきた

熱い精液が何度も  
私のケツ穴に注ぎ込まれた

そして私はそれに  
応えるように…  
何度も雌のような  
絶頂を迎えた

いつの間にか…  
私はあえぎ声を上げ…  
痴女のように腰を振り…  
デカチンに跨っていた

またデカチンで  
イツちやう…

私のケツ穴…  
パアナルしか受け付けられない…  
バカケツ穴になっちゃう…

おっ、っおっおっ…  
イク…  
イツちやう…  
は、っん…

ガッ

昼過ぎ…  
精液と陽光に  
包まれて  
目が覚めた

乾いた精液が  
体中にくっつき…  
全身が精液の  
臭いで満ちていた

お尻は痺れる  
ようだった

社長はたった一晩で…  
私に雌としての快楽を…  
深く刻み込んだ

その時…  
ひとつの疑問が浮かんだ…  
これからの自分は…  
普通に戻れるのだろうか…

To be continued.

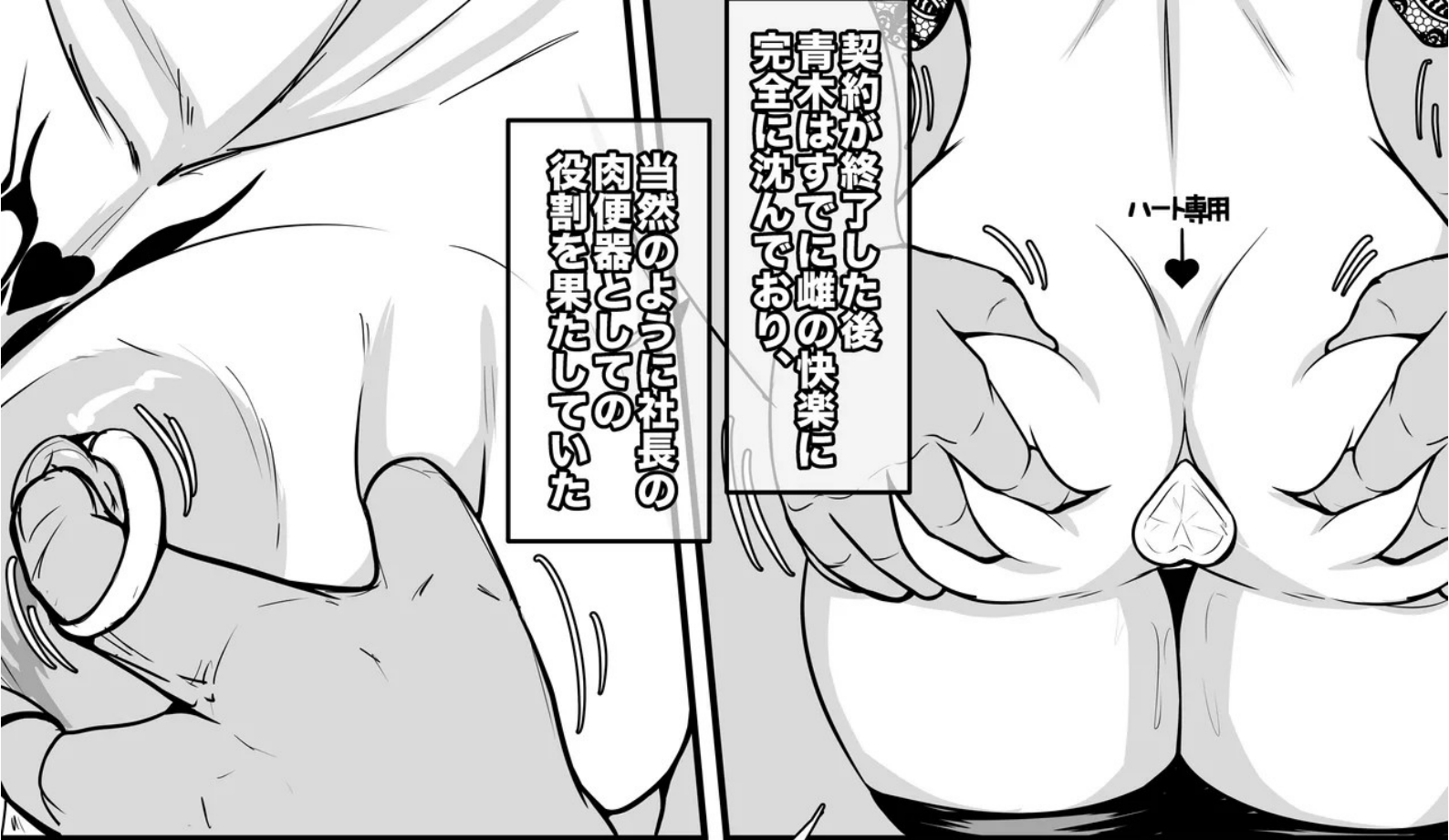
その後、  
青木は優子として  
見習い秘書として  
再雇用された

この三ヶ月間、  
優子はほとんど毎日、  
社長室で社長と  
アナルセックスをするか、

仕事という名目でホテル  
に赴き、獣のように  
狂ったように交尾を  
繰り返した

すみません、  
今夜も残業なの  
で帰りません

こうして  
三ヶ月が  
過ぎた



当然のように社長の肉便器としての役割を果たしていた

契約が終了した後青木はすでに雌の快楽に完全に沈んでおり、



妻子を捨て、身体を社長の好みの姿に変え、真の肉便器となった

最終的に青木は後戻りできない深淵に足を踏み入れ、

HAPPY ENDING♡



**最近は長い脚とフェラ顔がとても好みです**

**これは私が初めて制作した漫画です  
振り返れば不十分な点も多かったですが、  
最後までご覧いただいた皆様には  
本当に感謝しています  
もし気に入っていただけただけなら幸いです  
このストーリーにはまだ描きたい  
ことがたくさんありましたが  
そろそろオロチマルさんの  
作業に戻らないといけません**

誠にありがとうございます  
ご購入とご視聴をいただき、  
心より感謝申し上げます

これは私が初めて制作した漫画です  
皆様にご購入いただけたことは、  
何よりも大きな励みとなりました  
現在の自分の実力はまだ  
未熟だと自覚しておりますが  
今後もさまざまな面で努力を重ね  
より良い作品を創作で  
きるよう精進してまいります  
改めまして、ご購入とご視聴に  
深く感謝申し上げます

右側は優子のオリジナルデザイン案でしたが  
より清楚な印象を求め  
現在のデザインに変更しました

